07県大会参加しての感想

07年大会に参加して

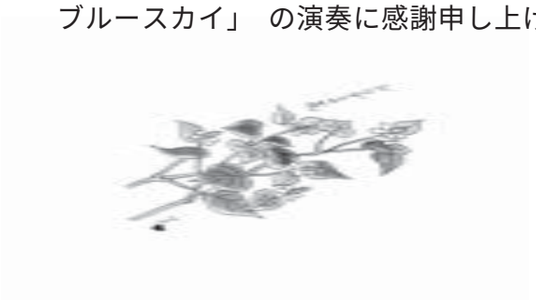
美和・緒川平和の会　小林　茂

今年の大会は日米軍事同盟を一層強化するための、憲法改正をねらった「国民投票法」が成立した時に開かれた。 性懲りもなくアメリカべったり、 福祉切捨ての自公政治家、 全く処置なしである。 戦前の生活を知っている一人として、 日本の行方に大きい危機感を持たざるを得ない。 だが最近の世論調査をみると内閣の支持率はガタ落ち、 まだ国民の良識は健全であると安心をする。

改憲阻止の運動、 米軍機くるなの取り組み、 核兵器廃絶の運動、 さらに仲間づくりの運動方針にたいしては16人の方より発言があり、 地域の実情にあわせた創意あふれる報告に感銘し勇気がわくのを覚えた。 特にニュース発行の重要性が訴えられた。 美和緒川平和の会では広報の大切さは痛感しているのだが、 なかなか実行されないでいる。 今年の検討課題としたい。

大会でも意見が出たが護憲団体の連携が大事になっている。 強力な改憲勢力を相手にしているわけだから、 バラバラでは相手の術中にはまってしまう。 小異を捨てて大同につくことができないものだろうかと思う。 この点で県平和委員会がはたす役割に期待したい。

会場にさわやかなかぜをながしてくれた 「コカリナ・ブルースカイ」 の演奏に感謝申し上げます。



07県平和大会成功に感動

鹿行平和委員会　関口　正司

梅雨に入ってから、 快晴になり夏雲を思わせる雲が流れる良き日、 せっかくの日曜日にもかかわらず、 老若男女が一堂に会し、 平和のために熱心に論戦する姿に大変感動しました。

政治、 行政がどんどん暴力を肯定し、 子供も大人もどうしていいかわからない、 自分の暮らし、 身の回りの事だけで精一杯の風潮の中で、 ただひたすら、 平和を求め、 まじめに真剣に論じ、 地域でこつこつと一人一人に訴え、 平和運動に参加を呼びかけている姿が光り輝いて目に浮かんできます。 この真実、 この誠実な活動は必ず、 国民の、 地域の心をゆり動かすことになると思いました。

なかなか、 運動が進まないで苦しむことがありますが大変励まされました。

私は議員として議会で毎回、 憲法を論じ平和に暮らしに教育に生かすことを訴えています。

神栖市は、 毎年自衛官募集を広報紙などで行っています。 このことについても、 憲法違反の自衛隊に若者を送り出すことを手伝うことも憲法違反としてやめるよう強調していますがやめません。

神栖市は、 旧日本軍の毒ガスによる被害が広がり、 戦後がまだ終わっていません。

平和行進では百里基地を出発し、 全自治体を訪問しながら波崎支所まで行進し、 佐原で千葉に引き継ぎますが、 こうなるまで約30年の歳月が流れました。

毎年の自治体や個人各団体に呼びかける賛助金は50万円近くになり、 毎年、 代表を3～4人派遣する事もしてきました。

平和でこそ、 暮らしも命も守れるのですが身近な問題としてとらえにくく、 運動への参加は厳しいものがありますが、 それだけの尊い、 誇りある運動として党派を超え、 地域で毎日毎日地道に訴え続ける事が平和委員会の活動であり平和を大きく前進させる道と信じます。

‘07年原水爆禁止平和国民大行進

福島からリレー旗を引き継ぐ

６月２８日北茨城市平潟公民館でいわき市の行進団から北茨城市平和行進実行委員会に引き継ぎました。

いわき市原水協の笹島さん 「同じ顔ぶれだが継続が必要。 いわき市５箇所の6/9行動の継続が今回、 行進中４７０筆の署名、 内郷では高校生ら１５０筆以上を集めた。 若者に確実に支持得ているのを感じた」 と。

北茨城市原水協の鈴木康子さん 「先日突然亡くなった齋藤さんの平和への意思を受け継ぎ、 平和行進を続けたい」 と。

通し行進者の浅田さん 「５月６日の礼文島からちょうど５０日目。 ６年目の挑戦。 いわき市への平和の要求７２項目には感心させられた」 と。 もう一人の通し行進者の野口さん 「水沢市では家から沢山の人が外に出てきて励ましの言葉をかけてくれた。 継続して行うことがこのように変えたのだ」 と。 それぞれ県内の行進を精一杯頑張りますと決意を述べました。

（北茨城市平潟公民館での引き継ぎ）

県内１２日間、 節目の５０年に相応しい 「核兵器のない平和で公正な世界を－被爆６２年の広島・長崎へあなたも－」 をスローガンに平和行進に頑張りましょう。

平和かわら版

平和新聞茨城版

No.475
月3回 発行
2007.7.5

発行：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

“「戦争美化」は許せません”
平和委員会の出番です

水戸西平和の会　松原　日出夫

戦争を知らぬに軍隊持ちたがり

私が , 地域の水戸西部市民 「九条の会」 結成二周年記念の集いの 「九条川柳」 人気投票、 という企画に応募したものです。

私は、 軍隊を持ちたがっている安倍首相の顔を思いうかべながらこの川柳を創りました。 しかし、 安倍首相は戦争を知っています。 でも、 それは戦争を正当化し、 美化するために調査 ・ 研究して得た知識です。

政権の座についた彼らは、 それを 「戦後レジームからの脱却」 という美名のもとにすすめ始めているのですが…

歴史の捏造は、 そう簡単にすすめられるものではありません。 沖縄戦の 「集団自決の軍の強制」を教科書から削除する動きにたいして、 沖縄県議会は全会一致で抗議の決議をしましたし、 「従軍慰安婦」 問題では、 米下院の委員会が 「日本政府は責任を認め、 謝罪せよ」 と決議をしています。

しかし、 安倍首相らは、 こんなことで引きさがる手合いではありません。 太平洋戦争から 60 数年もたち、 国民の大多数が戦後の世代になっていることをいいことにして、 国民の意識を誘導しようとして、 これからも、 手を変え品を変え、 戦争を正当化する動きをつよめつづけることでしょう。 それは、「9条」を憲法から抹殺することといったいのものですから…

こんどの県平和委員会の大会では 「8 月 6 日 （原爆投下）～8 月 15 日 （降伏） の期間を 「戦争と平和を考える旬間」 として提起され,確認されました。 安倍首相らの 「戦争美化」 の動きに反撃していくための大事な方針だとおもいます。

私たちは、 これまでも 「パネルや写真の展示会」 「戦争体験を聞く会」 「戦跡や平和記念館のツアー」 などに取組んできました。 「戦争と平和」のテーマは平和運動の原点の活動だからです。

今度の「旬間」提起は、 この活動をより多彩なものに、 そして、 参加者の規模も広がるような取組みにしていこう （もちろん 「旬間」 以外のときも） ということだとおもいます。

（6月２７日）

原爆と人間展

とき　　２００７年8月3日～9日（6日休館）

ところ　県南生涯学習センター（土浦駅西口ウララ5階）

原爆パネル展 （5階ギャラリー）

５日はピースデー 「ゴジラ」 「長崎の鐘」 上映

土浦市平和使節団報告 ・ 被爆者体験談

主催　　被爆６２年平和のつどい実行委員会

TEL ０２９－ ８２３－７９３０

巣立ちの春に

古河平和の会　野口　　徳

春は巣立ちの時、 多くの若ものたちは新しい一歩をふみ出しています。

わが家でも、 高校を卒えた孫は北海道北見へと旅立ちました。

北見工大 ・ 家族の誰もがこの意外な選択に戸惑いながら送り出したが不安は限りないものです。 それはいままでの生活 ・ 身の周りすべて親まかせ、 家事手伝いなど殆どせず、 自分の部屋の整理も残したままです。 寒い遠隔の地で不馴れの生活に果たして耐えられるだろうかと。 しかし本人は平然と 「寒い土地だが暖房完備、 案ずる程のものでない、 戦争へ行くのではない」 と言わんばかり 「夏休みまでは帰らない」 と言い残し夜明けの駅を後にした。

そして一ヶ月、 電話はこちらからの一方通行、 いつも短いやりとり。 要件が終わればすぐに切れてしまう。 それでも夕餉の話題は北海道中心。 テレビのニュースに北海道が出れば一段と弾みます。 けんか相手だった弟 （高一） は口数はめっきり減ったが気にしているようで、 話の中に入ってくる。

はじめて、 わが子を送り出した家では同じ様に少し淋しいがたのしい話題がくりひろげられていることでしょう。

ふり返り、 私の同年代の出発と余りにもかけ離れた光景がこの胸をよぎります。

1943 年 （昭１８） 6 月 30 日、 横須賀へ出発の日、家の前も、 駅でもいっぱいの人に溢れまさに旗の波と万歳にどよめいていました。 送る人も発つ者も君と国のため、 尽忠報国の誠を、 東洋平和のため等々勇ましい言葉が続くが心の底には、 「果たして故郷の土を踏むことが出来るか」 の懸念が華やかな中にも、 悲壮な死出の旅立となるやも知れず胸にあったから本音は抑えたものでした。

ただ一年生の妹は 「兄ちゃん死んじゃいやだ」 と泣き声が後から差し込むようにきこえた。 ふり返ると母は妹を抱きあげ口をふさいで手を振っていた。 本音は同じであったと思います。

戦場へ大切な人を送り出した家族は灯火管制の下、 暗い灯りの下でさびしい夕食、 笑顔もなく手を合わせ祈るような小声の会話であったことでしょう。

私の乗組んだ軍艦酒匂、 宛先にはその名は記せず、 横須賀気付〒１０１と氏名だけ、 その行動は一行も書けず、 家族は一層不安の募ったことと思います。 ただ陰膳を供えて祈るばかり、 戦後復員したとき祖伯母から何度もその切ない思いを聞かされたものです。

いまも別れの旅立ちは淋しさはありますが将来への大きな期待があり楽しい話題は限りなく出征とは全く比較されるべきものでないのです。 しかし、 それも昔の物語としてよいか不安がよぎります。 国民投票法案―憲法改悪へ安倍自公政府の危険な企みです。 戦争する国への逆行許すべからず。 ふたたび暗黒の時代の再来を止めるべくきびしい監視と連帯の強化の重要さを感じるところです。

訂正とお詫び

No.473 美浦平和の会会長名東園さんを井上勉さんへ。

No.474 理事会名簿中　齋藤哲さんの所属平和の会名を筑守から守谷へ。 それぞれ訂正をお願いいたします。

事務局便

第五七回日本平和委員会定期全国大会の機関誌コンクール地域・基礎組織部門で、発刊ほやほやの、守谷平和の会の「守谷平和の会ニュース」が、特別賞（新人賞）を受賞された。

編集者と支えた会員の皆さんおめでとうございます。

先の県大会でも「会報」は仲間だけでなくその周りの人々にも作用するとの発言がありました。

会報を、生かすも殺すも会員の皆さん次第。どんどんニュースを送って。

ちなみに「かわら版」は、都道府県部門で皆さんのおかげで最優秀賞を受賞した。（ま）